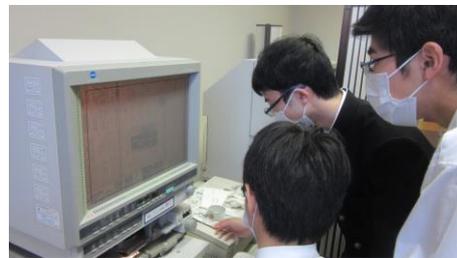
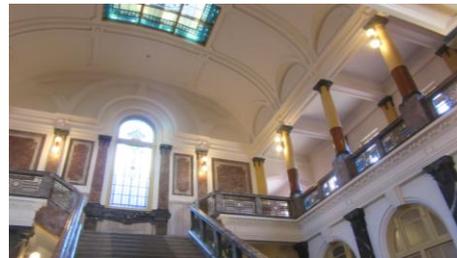


名市工 NEWS

<第233号>

100年前の中部の航空史を調査、名古屋市・各務原市で交流会

日本で飛行機が飛び始めて110年が経ち、今年以降、中部の航空機メーカー各社が飛行機を製造し始めて100周年を迎えます。飛行機同好会（以下、同好会）は、今春から今夏にかけて中部の航空発祥史を調査^{関連 No.229}。そして、調査で集まった当時資料の保管や活用について、資料とゆかりの深い自治体である名古屋市・各務原市に相談した結果、11/3の文化の日を契機に、名古屋市市政資料館（名古屋市）と岐阜かかみがはら航空宇宙博物館（各務原市）に一部の資料を寄贈することにしました。そして、寄贈に際して、両市・両館の協力で、同好会は調査結果を報告し、両館から同好会の調査活動に関わる当地の当時資料を基に歴史や技術について解説していただく交流会が実現しました。100年前の航空機を振り返りながら、郷土史を再確認できる機会になりました。



名古屋市での交流会の様子 寄贈物：1913年に開催された特別大演習^{*1}の公式写真帖^{*2} → 寄贈先：名古屋市市政資料館

*1 飛行機が名古屋に飛来した初の国主催行事、名古屋城の周辺で飛行機が離着陸した *2 愛知県内各地の写真が満載、名古屋城の写真が多く掲載



各務原市での交流会の様子 寄贈物：1917～1920年頃の各務原飛行場^{*3}の絵葉書30枚 → 寄贈先：岐阜かかみがはら航空宇宙博物館

*3 現存する国内最古の飛行場、中部の航空産業の発展のきっかけになり多くの飛行機が初飛行した、現在も航空宇宙産業や飛行機開発実験が盛ん